

# さくら草 明日に夢ネット！ ～ノーマライゼーション社会の基点として、地域との共生意識の涵養～

埼玉県さいたま市		●活動名 さくら草スクールサポートネットワーク			●関係する学校名 さいたま市立さくら草特別支援学校		
協働活動開始年度	平成 24 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有		
活動区分	学校支援活動		—	地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—		—	—	—		
	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	—		—	1人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	無		
	98人	—	—	—	—		
参考URL	<a href="http://sakurasou.saitama-city.ed.jp/">http://sakurasou.saitama-city.ed.jp/</a>						
●連絡先	さいたま市立さくら草特別支援学校		☎ 048-712-0395				

本校高等部の生徒と市立浦和南高等学校漫画研究部が交流及び共同学習を通じて考案したマスコットキャラクター「プリムローズ そら・くう・さく・さら」



●活動の概要・経緯  
本校は、小学部・中学部・高等部で構成され、肢体不自由と知的障害を併せ有する児童生徒37名が在籍し、開校9年目を迎える。開校以来、児童生徒が近隣地域宅に訪問し、学校だより等を届ける活動、地域の福祉施設や企業での社会体験活動を展開してきた。触れ合いが深まるに連れ、地域の住民や自治会ははじめ、社会福祉協議会、近隣の高校、専門学校、大学の学生による支援活動の和が広がってきた。現在では、校地内の花卉栽培、学校行事の運営支援、コンサートや交流作品展など、地域や諸機関と学校との協働活動が定着しつつある。また、地域のロータリークラブやプロスポーツチーム、民間企業、障害児福祉施設などとの連携も進められている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

地元住民や地元ボランティア団体、手話サークル、ロータリークラブ、近隣幼稚園などと連携し、「ふれあいコンサート」を定期的で開催している。プログラムは、手づくり楽器による全員合奏、手話披露、PTA合唱や園児の踊りなど、児童生徒とのふれあいを中心とする全員参加型とし、地域ぐるみの文化音楽活動を展開し、学校理解を図るとともに連携協働体制の深化に繋げている。また、高等部では、福島県いわき市で展開されている地域活性化事業「オーブプロジェクト」に協力するため、地域のボランティアの方々とともにオーブの挿し木作業に取り組み、育てた苗木を現地に届ける活動を展開している。

### 【実施に当たっての工夫】

学校地域連携コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）が中心となって、学校と地元自治会や社会福祉協議会、関係する団体との連絡調整を担い、学校の狙う目的に沿うような活動内容となるよう擦り合わせをしている。また、活動の事前打合せ会や事後評価の情報提供などに配慮し、持続可能な取組に繋がるように工夫している。

### 【関係機関・団体等との連携状況】

スクールサポートネットワーク協議会で、日常の教育活動の様子や地域の方々や関係機関等と児童生徒の係わり状況などについて、動画や写真による報告にもとづいた意見を交換することによって、協働活動の工夫改善点が得られるとともに、メンバー間の相互理解や信頼関係が深まり、学校との連携体制が一層強くなってきている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

本校は、歴史が浅く通学区域が広範囲に渡っており、所在地近隣住民に対して、特別支援教育への理解促進と連携協力体制の構築が大きな課題の一つとなっていた。地域宅への訪問活動や学校行事等への積極的で粘り強い参加協力依頼、教育活動の積極的な情報発信を通して、応援団体が年々増えてきた。現在では、25の団体や機関から支援を受けており、幅広い年齢の多様な方々とのふれあい活動に繋がっている。また、年度末に実施している学校評価結果においても、地域との連携した教育の効果については、教職員、保護者ともに肯定的な割合が増えている。地域学校協働活動によって、児童生徒、保護者、教職員、参加者の皆さんの笑顔が増えてきており、地域に根ざした学校となりつつある。

## ● その他

地域の方との交流を大切にしている。毎年地域の方を招いて「ふれあいコンサート」を開催している。令和元年度はさいたま欖ロータリークラブと共催でズーラシアンブラスの演奏を楽しんだ。また、浦和レッズとの交流では校内の花壇にバラの植栽を行った。



地域へのお手紙配り



ボランティアの挿し木作業との